

平成30年度劇場・音楽堂等機能強化推進事業
(地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業)

成果報告書

団 体 名	(株)わらび座	
施 設 名	あきた芸術村・わらび劇場	
助成対象活動名	公演事業	
内定額(総額)	26,986	(千円)
公演事業	26,986	(千円)
人材養成事業	0	(千円)
普及啓発事業	0	(千円)

(2) 平成30年度実施事業一覧

【公演事業】					
番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	あきた元気事業 新春顔見世公演	2019年1月1日～1月3日	◇第一部 演出・長掛憲司ほか、出演・三重野葵ほか ◇第二部 演出・栗城宏ほか 出演・戎本みろほか	目標値	900
		わらび劇場		実績値	1,376
2	青少年東北民俗芸能の祭典2018	2018年7月29日	出演・「津軽三味線」(青森県五所川原市・青森県立金木高等学校三味線部)ほか	目標値	1,000
		わらび劇場		実績値	1,320
3	ミュージカル「北前ザンブリコ」アトリエ公演	2018年5月9日	演出・栗城宏ほか、出演・三重野葵ほか	目標値	120
		西木総合健康増進センター		実績値	240
4	第六回こまち演劇祭	2018年8月10日～12日	演出・栗城宏ほか、出演者・奥泉まきはほか	目標値	200
		あきた芸術村小劇場		実績値	2,225
5	わらび劇場寄席	2019年1月12日	出演・柳家小平太	目標値	120
		あきた芸術村小劇場		実績値	98
6	「わくわく和ライブ」&「K I N J I R O !」モニター公演	2018年5月4日、5日	作曲・小沢剛ほか、出演・黒木いづみほか	目標値	300
		あきた芸術村小劇場		実績値	253
7	冬の小劇場公演	2018年11月25日～2019年3月21日	演出・栗城宏ほか、出演・小山雄大ほか	目標値	4,900
		あきた芸術村小劇場		実績値	4,750
8	わらび劇場アトラクション事業	2018年4月1日～2019年3月30日	出演・齊藤和美ほか	目標値	2,800
		あきた芸術村		実績値	5,130
9	わらび劇場国際交流プログラム	2018年9月4日	出演・長掛憲司ほか	目標値	100
		あきた芸術村		実績値	66
10	明治維新150年記念ミュージカル「松浦武四郎」アトリエ公演	2018年8月18日	演出・栗城宏ほか、出演・戎本みろほか	目標値	120
		八乙女交流センター体育館		実績値	99
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
平成30年度の目標値、実績値				目標値	10,560
				実績値	15,557

【妥当性】

自己評価

社会的役割（ミッション）や地域の特性等に基づき、事業が適切に組み立てられ、当初の予定通りに事業が進められていたか。

秋田県は人口減少率全国ワースト1と大きな問題を抱えており、劇場のある仙北市もまもなく人口26000を切る過疎地域です。さらに少子高齢化も進んでおり、若者の市外、県外への流出も多いのが現状です。それだけに世代間交流、地域間交流、国際交流（インバウンドも含む）は地域全体で取り組むべき課題です。したがって課題の解決に向けて、「文化の力で秋田を元気にする」というテーマで年間を通じて事業を行います。具体的には秋田のリージョナルシアターとして、専属劇団わらび座による、地域の歴史文化に根ざした題材のオリジナル舞台芸術の制作上演を軸に、地域の舞台芸術文化を活性化させるフェスティバル事業のほか、国際文化交流を図る事業、アウトリーチも兼ねた出張公演など多様な事業を展開しました。

助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。

・ 質の高い舞台芸術作品の鑑賞、参加機会の増加による高齢者の生きがいつくりの促進

⇒専属劇団わらび座を中心にプロのアーティストによる鑑賞型公演を実施。事業1、2、3、5、6、10が対象。過疎地域においても質の高い舞台芸術鑑賞の機会をつくることができた。

・ 地域文化を題材にした舞台芸術作品の上演による青少年のふるさと教育の推進

⇒事業7で明治維新150年を記念して地元の偉人である浜田謹吾を題材にしたオリジナルミュージカルを上演。仙北市の協賛事業として市内の小中学生の団体鑑賞が実現。郷土愛を育むことで将来的な人口の社会減への対策としても期待されています。

・ フェスティバル、アウトリーチ、出前公演、国際交流事業の開催による交流人口の拡大

⇒事業4、事業8、事業9を実施して地域の交流人口拡大に貢献できた。地域の主要産業である観光や、インバウンドにつながる国際交流による交流人口の拡大は、宿泊、飲食、物販等の面で間接的な部分で経済効果にも繋がった。

【有効性】

自己評価

目標を達成したか。

事業全体の入場者、参加者数は目標11,980名に対して、実績15,557名と大幅達成できた。あわせて入場者率・参加者率、収益率も目標をクリアできた。

- ・ 全体のうち70代以上の高齢者2,000名の鑑賞、参加を実現する
⇒ アンケート回収の割合から全体の18%が年齢70代以上。対象事業においては約2,800名の鑑賞、参加の見込み。
- ・ 全体のうち仙北市内の全中学生、全小学校高学年生1,300名の鑑賞、参加を実現する
⇒ 事業7「冬の小劇場公演」において、市内の小中学生860名が鑑賞。インフルエンザの蔓延により各学校鑑賞実現せず。
- ・ 全体のうち外国人100名、県外客1,000名を含む4,000名を仙北市外から獲得する
⇒ アンケート回収の割合から全体の81%が市外。対象事業においては12601名（うち外国人は106名）

【効率性】

自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んだか。
アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んだか。

事業期間としては、観光面で交流人口の見込める春（桜・新緑・ゴールデンウィーク）、夏（夏休み、夏祭り）、秋（紅葉）の観光トップシーズンと、農業従事者の最も動きやすい農閑期となる冬期間と事業の対象に応じて通年で計画。ほぼ当初の予定通りの実績となった。交流人口を含めると言っても、仙北市人口の約6割にあたる集客目標を設定しており、事業ごとにバラツキはあったが、トータルでは入場者・参加者の目標は達成できたので適切だったと考えます。

事業経費については、より効率的な集客を目指して宣伝費、印刷費等を中心に削減し、計画（8160万円）から実績（6016万円）まで大幅に改善。一方で収入は入場者数・参加者数の増加によって、外部収入となる入場料が当初計画（1121万円）から実績（1431万円）まで大幅に改善。収益性の高める要因となった。

【創造性】

自己評価

地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であった（と認められる）か。

あきた芸術村・わらび劇場は、劇団わらび座を専属団体として有しており、プロの俳優、創作スタッフ、舞台スタッフの常駐している点が大きなメリットです。わらび座には民族歌舞団としての歴史があり、日本各地の民族芸能の素養をベースに俳優を育成しているため、日本独自の歌、踊り、演奏を取り入れたオリジナルミュージカルの制作上演や各種ワークショップ、アウトリーチへの対応も可能にしています。さらに劇場を中心にホテル、料飲施設、観光施設からなる「あきた芸術村」をホームベースとしているので、教育旅行の誘致をはじめ、環境面でも地域との連携を行う上での優位性があります。

わらび座は1951年創立。約35名の専属俳優、そのほか約80名の創作、舞台、制作、広報、営業、マネージメントスタッフを抱えるプロ劇団です。当劇場での上演、全国ツアー公演をあわせて年間上演回数は1,000回にのぼります。当劇場の芸術監督で劇団の作品創造の柱でもある栗城宏は、2014年の第29回国民文化祭あきたの開会式、閉会式で演出を務め、それらの質の高い仕事が認められて、2015年2月には「秋田県芸術選奨」を受賞しています。本事業においても1、3、4、7、10の事業で演出（一部脚本も含む）を担当、質の高い公演へ評価をいただくと共に、マスメディアへの露出の面でも貢献しています。そのほか劇団わらび座以外でも、事業3の脚本には劇団ホンキートンクシアターを主宰していた中島敦彦氏、事業6②「KINJIRO!」の脚本演出にはラッパ屋の鈴木聡氏などを起用し、作品のクオリティを高めることに尽力しました。

東北のリージョナルシアターである当劇場としては、東北ゆかりの歴史・文化に基づいたオリジナルミュージカルの創作を通して、地域に貢献していくことが求められています。本事業でも東北各地の自治体が日本遺産として認定された北前船文化（事業3）や、戊辰戦争の際に大村藩から駆け付け、秋田の地で非業の死を遂げた浜田謹吾少年（事業7）、そして北海道・東北各地に色濃く残るアイヌ文化（事業1、10）、東北を代表する童話作家の宮沢賢治の名作（事業4）などを題材に、各地の民族芸能の要素を取り入れながらオリジナルミュージカルを制作し、好評を博しました。また上演に際しては、戦略的に明治維新150年、北海道150年、日本遺産認定など周年や節目と連携することで、ツアー作品として進化を遂げ、県外での上演も実現し、地域間交流の促進に繋がりました。また民族芸能そのものも舞台芸術としてアレンジして事業1、4、6、8、9のなかで上演。演劇人口の集中する都市部とは違う過疎地において、観光客を新規獲得することにより、観客層の拡大にも貢献できました。

【創造性】

自己評価

地域の実演芸術の振興など、地域の文化芸術の発展につながっていた（と認められる）か。

地域の文化芸術の発展に貢献する視点では、包括連携協定を結んでいる地元自治体の仙北市と月1回はヒアリング（主に市長）を行っている。仙北市は「小さな国際文化都市」をまちの将来像としており、かつては共に文化庁「文化芸術創造都市モデル事業」も実施した実績（2012年3月文化庁長官表彰受賞）がある。人口減少、少子高齢化という課題に対して、高齢者の生きがいづくり、青少年のふるさと教育、インバウンドも含めた交流人口の拡大に繋がるという前提で、事業計画を立案し、市からも内容に応じて協力、助言をいただきながら開催している。事業7ではふるさと教育の観点から市内の小中学生の招待観劇が実現した。また事業2では共催して市広報等で市民へ参加を促す告知協力を行った。

当劇場の外部審議を行う「あきた元気事業委員会」の委員からも劇場の運営、事業の開催に関して、個別に助言、協力をいただいている。

市民の声については、劇場来場者向けアンケートを行っており、事業に関する要望や改善案など個別のコメントとして回収、事業に反映させています。

【持続性】

自己評価

事業を通じて組織活動が持続的に発展した（と認められる）か。

・地域に、社会に貢献する劇場として事業を実践しております。その主体となる専属劇団のわらび座については、継続的な人材の育成、多岐にわたる事業に対応する人事配置を実現する為に、俳優、制作スタッフ、舞台スタッフの正規雇用に力を入れております。対象となる劇団所属メンバー78名のうち、正規雇用は74名（俳優35名、舞台スタッフ28名、制作スタッフ11名）と正規雇用率は95%にのぼります。人口減少の顕著な過疎地域に位置する当劇場においては、人材確保は重要な課題で、通年での業務の機会確保は雇用の面において大きな意味を持っています。そして将来的な人材育成のために2年間のカリキュラムからなる「わらび座養成所」を設置し、専属俳優としての正規雇用のルートを確保しています。

・安定的な収益基盤の確保、そして地域貢献を目的に企業、団体、個人からの協賛金を募っています。2018年度は8,238,000円の収入となりました。前年度7,825,000円からの増額となります。協賛金は「子ども舞台芸術サポートプログラム」（劇場への学校の子どもたちへの観劇サポート費用）、劇場のガイドブック作成費用、あきた芸術村でのイベント開催費用などにあてられています。特に秋田の子どもたちのふるさと教育に貢献していく視点が高い評価を受けており、今後の作品制作の上でも参考にしています。

・同じ地域に根差した民間劇場として愛媛県東温市の「坊っちゃん劇場」とは提携劇場の関係にあります。2018年度には同劇場で栗城宏演出の「誓いのコイン」が再演されました。現在の当劇場支配人も坊っちゃん劇場支配人経験者であり、2019年度は所属俳優を1名派遣するなど人材交流も行っています。またわらび劇場から派遣し、同劇場で社員教育プログラムを担当してきた俳優のノウハウをもとに「シアターエデュケーション」を実践しています。

・毎年、秋田大学との連携事業として教員免許更新の講習会を開催しています。また過去には栗城宏が非常勤講師として採用された実績もあります。